

## 特集「多様な価値を創出する情報システム」の 編集にあたって

浅井 達 雄<sup>†1</sup>

情報システムが作り出す価値は、情報システムを構成する各種の要素の機能もさることながら、その利用方法によって大きく変動する。換言すれば、たとえば競合他社が保有する情報システムと同じ情報システムを構築してもビジネスが成功するとは限らない。今回の特集は、近年、適用業務範囲や利用形態が急速に変化し拡大する情報システムの側面に着目した企画である。

投稿された論文は、情報システム構築に関するものもとより、そのライフサイクル全体にわたるとともに、主題は社会基盤・教育・医療・福祉・組織運営・企業経営など広範囲に及んでいる。投稿者の所属も大学や研究所だけでなく企業における現場の担当者など多岐にわたった。投稿論文数は21件で前年と同数であった。採択した論文は6件であって、対前年比で2件の増加をみたが採択率は約29%にとどまり、目標の50%には至らなかった。しかし、不採択となった論文には大変興味深いテーマのものが多く、完成度を高めて再投稿されることを期待している。

採択した論文は、社会基盤としての属性情報の新しい管理方式を提案するものから安全な地図情報配信システムの構築を論じたものまできわめて広い範囲をカバーしている。また、対象領域については、情報システム企業の経営感覚を身につけさせるシステムを提案するものなど、これまでとは異なった視点からの論文も採択できた。また、採択した6件の論文のうち4件がセキュリティに自然に関連する論文である。これは情報システムの社会への浸透にともなって必然的に生じる課題を避けて通ることができないことを示している。

情報システム論文はその扱う範囲がアプリケーションを含めると限りなく広いこともあって論文としての評価が容易でない。また、論文が情報システムの構築を包含している場合

に、論文というよりも報告書になってしまうことが多いということも採択率が低い要因となっている。こうした点については、本学会「情報システムと社会環境研究会」が、論文の質向上を目指して、情報システム論文の意義や特質を理解し投稿者の意欲を喚起するため、毎年、「論文執筆に関するワークショップ」を開催してきている。

本年度の投稿論文をみると、昨年までと比べ、いわゆる事例報告的な論文が減少した。ワークショップの成果が少しずつではあるが目に見える形になってきたように思われる。しかしながら、システムを構成する場合になぜその部品を選んだのかなどについて候補となる他の部品との比較検討をしないまま論を先に進めている論文がいままなお存在している。また、アプリケーションに関連する論文では、我々としてはこれをあえていえばユーザの観点というよりも情報システム技術者の観点からみて問題を明確にすることが大切である。この問題をいくつかの選択肢の中からシステム構成要素として厳しくかつ客観的に選択、判断しながらシステム全体を構築するという姿勢を貫徹すれば情報システム論文としてより優れた読み応えのあるものとなるように思われる。

最後に、本特集号の機会を与えていただいた論文誌編集委員会、短い期間に迅速かつ丁寧に査読していただいた特集号編集委員と査読者各位、スケジュール管理を含めさまざまな支援をしていただいた学会担当者に特集号編集委員会を代表して深く感謝致します。

「多様な価値を創出する情報システム」特集号編集委員会

- 編集長  
浅井達雄（長岡技術科学大学）
- 編集委員（五十音順）  
阿部昭博（岩手県立大）、井上 明（甲南大）、市川照久（静岡大）、魚田勝臣（専修大）、大場みち子（はこだて未来大）、金田重郎（同志社大）、神沼靖子（本学会フェロー）、児玉公信（情報システム総研）、刀川 眞（室蘭工業大）、辻 秀一（東海大）、富澤真樹（前橋工科大）、畑山満則（京大）、樋地正浩（日立東日本ソリューションズ）、平賀瑠美（筑波技術大）、弓場敏嗣（本学会フェロー）

<sup>†1</sup> 国立大学法人長岡技術科学大学  
Nagaoka University of Technology